

2021年度 甲賀地域ぶどう栽培研究会暦(サニールージュ)

令和3年2月末時点

月	旬	生育 ステージ	管理作業	かん水	内 容
2		休眠期	基肥施肥		・右図を参考に施肥。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) エコレット048 硫酸マグネシウム 参考 10aあたり基肥窒素量
3	上	樹液流動開始	かん水はじめ	・水分不足は発芽遅延や発芽不揃いを招く。 ・土が乾燥しないように保つ。 ・晴天日の午前中に灌水する。	・萌芽の揃いを良くするために樹液流動開始前にかん水を開始する。 4m 600g 400g 2.4kg 8m 1,200g 800g 4.8kg 10m 1,500g 1,000g 6kg
	中		主枝のぶら下げ	・定植3日目以降は、主枝の先端を下げることで、均等な発芽が期待できる。	
	下		《カイガラムシ類、ハダニ類、越冬病虫害》 ビニール被覆開始	・石灰硫黄合剤(7倍、萌芽前)※展着剤加用 ※粗皮削りを行ってから散布すると効果が高い。ポルドー液との混用はしない。 ・萌芽前に被覆を行う。	
4	中	萌芽～展葉	【展葉5～6枚】 芽かき		・不定芽、副芽をかきとる。
5	上	新梢伸長・展葉	【展葉6～7枚】 早ジベ処理(フルメット加用)		・フルメット3ppm 加用 ジベレリン25ppm
			【展葉7枚前後～】 ねん枝・誘引 摘房① 巻きツル除去	・土が常に湿り気のある状態を保つ。 ・極端な乾燥は、花ぶるいを助長する。 ・開花10日前には特に水分が必要。 【pF2.2程度】	・誘引は、ねん枝を行いながらする。 ・1新梢あたり1房にする。弱い新梢は空枝にする。 ・収穫後まで巻きツルは除去する。
	中	【展葉9～10枚】 《べと病、黒とう病、晩腐病》		・ジマンダイセンフロアブル(800倍、開花前)	
	下	【開花はじめ】 花穂整形 結果枝摘心・副梢摘心 無核率向上処理		・穂軸長を整える。 ・90cm以上の強い新梢は先端の未展葉部分を摘んで勢力を抑える。 ・副梢は2葉を残して摘心する。 ・アグレスト(1,000倍、開花14日前から開花期、花房散布または浸漬) ・2回目ジベレリン処理日確定のため満開日を記録しておく。	
6	満開				
	結実期		《灰色かび病、うどんこ病》 《ブドウトリバ》		・フルピカフロアブル(2,000倍、開花期～幼果期) ・スタークル顆粒水溶剤(2,000倍、前日)
	上	果粒肥大期	予備摘粒		・内向き果粒と著しい小粒を取り除く。
			摘房②		・目標房数の1.3倍まで摘房をすませる。着粒の確認後、2回目ジベレリン処理までに行う。
			【満開10～15日後】 2回目ジベレリン処理	・生育期間中で最も水が必要な時期。 ・土が常に水分で満たされている状態を保つ。 ・果粒肥大促進のため十分な灌水を行う。 【pF1.5程度】	・ジベレリン25ppm ・目標房重400gになるように穂軸の長さを調整する。 ・ジベ焼け防止のため、処理後液をよく弾き落とす。 ・ストロビードライフフロアブル(3,000倍、14日前) ・サムコルフロアブル10(5,000倍、前日) ※果粒の汚れが気になる場合は、 展着剤スレイクスルー10,000倍添加(濃度注意)
中	【2回目ジベ処理後】 《べと病、晩腐病、灰色かび病、うどんこ病》《アザミウマ類》		・2回目ジベレリン処理後直ちに開始し、果粒がダイズ大になった頃までに仕上げる。 ・目標房数に仕上げる。		
下	【2回目ジベ処理後すぐ】 仕上げ摘粒 摘房③		・追肥は基部葉の脱色が起きない程度に抑える。		
7	上	果粒軟化期	袋かけ・ビニール被覆除去		・糖度上昇のため果粒軟化期に袋かけを行う。 ・袋かけが済み次第ビニールを除去する。 ・ランマンフロアブル(2,000倍、14日前) ※果粒の汚れを防止するために袋かけ後に散布する。
	上	着色期	《べと病》		
8	上	収穫期	収穫		・糖度18度以上、カラーチャート値3～5で収穫する。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) 琥珀 参考 10aあたり窒素量
	収穫直後	貯蔵養分蓄積期	礼肥 《べと病、さび病》 《ブドウトラカミキリ、コガネムシ類、フタテンヒメコバイ》	・土が常に湿り気のある状態を保つ。 ・土壌水分の急激な上下は裂果を招く。 ・過度な乾燥は、糖度上昇や着色に悪影響。 【pF2.2程度】	・園芸用肥料「琥珀」を主枝延長に応じて施用する。 4m 140g 0.78kg 8m 280g 1.57kg 10m 350g 1.96kg ・ムッシュボルドードライフフロアブル(500倍) ・スミチオン水和剤40(1,000倍、21日前) ※混用は散布直前に行う ※高温多湿期の散布は薬害を生じる恐れがあるのでクレフインを加える。
9					
10					
11	下	落葉期	落葉処理		・落葉は集めて園外に持ち出し処分する。
12		休眠期	せん定 越冬病虫害防除		・切り落とした枝の中にはトラカミキリ・スカシバの幼虫が入っていることがあるので処分する。 ・主幹や主枝、結果母枝にトラカミキリ・スカシバが食入していないか点検する。 ・粗皮削りを行い越冬病虫害対策を行う。
			土づくり		・堆肥と土づくり資材の施用を右表を参考にを行う。 主枝延長 1本あたりの施肥量(g) リンスター30 苦土消石灰 FTE 4m 300g 800g 40g 8m 600g 1,600g 80g 10m 750g 2,000g 100g

1mあたりの新梢数	新梢間隔
5本	20cm

主枝延長	1本あたりの施肥量(g)	参考 10aあたり窒素量
4m	140g	0.78kg
8m	280g	1.57kg
10m	350g	1.96kg

【満開30日後】
摘心は控える
【果粒軟化期】

※農薬使用の際には、ラベルに従って下さい。

※薬剤抵抗性害虫の発生を避けるため、同じ薬剤を続けて散布しないようにしましょう。